

令和6年度 九州看護福祉大学

SD・FD 実施報告書

九州看護福祉大学 SD・FD 委員会

目 次

1. 委員会開催記録	2
2. SD・FD研修会	5
1) SD・FD研修 実施概要	
2) SD研修プログラム 実施研修一覧	
3) FD研修プログラム 実施研修一覧	
4) 対面SD研修の実施内容・委員長講評	
4-2) 対面FD研修の実施内容・委員長講評①	
4-3) 対面FD研修の実施内容・委員長講評②	
5) 総評	
3. アンケート結果	11
1) 受講履歴(教育職員・事務職員)及びアンケート	
2) 令和6年度SD研修会(対面“川原先生”)に関するアンケート	
3) 令和6年度FD研修会(対面“鈴木先生”)に関するアンケート	
4) 令和6年度FD研修会(対面“古堅先生”)に関するアンケート	
4. 令和6年度SD・FD委員会 構成員	25

1. 委員会開催記録

令和6年度のSD委員会とFD委員会の開催記録を掲載しています。

令和6年度 第1回 SD委員会

日時：令和6年5月21日（火）9時29分～9時31分

場所：東ウイング大会議室

【議題】

1. 委員長の選出について

令和6年度 第1回 FD委員会

日時：令和6年5月21日（火）9時32分～9時34分

場所：東ウイング大会議室

【議題】

1. 委員長の選出について

令和6年度 第2回 FD委員会

日時：令和6年6月18日（火）13時09分～13時56分

場所：東ウイング大会議室

【議題】

1. FD研修会の実施について

令和6年度 第2回 SD委員会

日時：令和6年10月1日（火）15時05分～15時36分

場所：東ウイング大会議室

【議題】

1. SD研修会の実施について

【報告】

1. 経常費補助金獲得に向けた活動について

令和6年度 第3回 FD委員会

日時：令和6年10月1日（火）15時38分～15時45分

場所：東ウイング大会議室

【議題】

1. FD研修会の実施について

【報告】

1. 経常費補助金獲得に向けた活動について

令和6年度 第3回 SD委員会

日時：令和6年11月14日（木）16時30分～17時26分

場所：東ウイング大会議室

【議題】

1. SD研修会の実施について
2. 予算案について
3. 令和7年度内部質保証推進年間主要スケジュール（案）について

【報告】

1. その他
 - (1) 実施報告書の作成について
 - (2) SDの基本方針の改正について

令和6年度 第4回 FD委員会

日時：令和6年11月14日（木）17時27分～17時44分

場所：東ウイング大会議室

【議題】

1. FD研修会の実施について
2. 予算案について
3. 令和7年度内部質保証推進年間主要スケジュール（案）について

【報告】

1. その他
 - (1) 実施報告書の作成について
 - (2) FDの基本方針の改正について

令和6年度 第4回 SD委員会

日時：令和6年12月10日（火）11時01分～11時21分

場所：東ウイング大会議室

【議題】

1. SD研修会の実施について
2. 令和7年度内部質保証推進年間主要スケジュール（案）について
3. 実施報告書の作成について

令和6年度 第5回 FD委員会

日時：令和6年12月10日（火）11時27分～11時36分

場所：東ウイング大会議室

【議題】

1. FD研修会の実施について
2. 令和7年度内部質保証推進年間主要スケジュール（案）について
3. 実施報告書の作成について

2. SD・FD 研修会

1) SD・FD 研修 実施概要

【実施期間】

令和7年1月14日（火）～3月14日（金）

【受講方法】

- 対面研修への参加
- 本学職員専用の web ページに掲載のオンデマンド研修動画の視聴

【研修の受講要件】

全職員共通で対面研修は原則受講。

- ・教育職員
 - SD研修プログラム(対面研修を含む)のうち2つ以上を受講
 - FD研修プログラム(対面研修を含む)のうち2つ以上を受講
- ・事務職員及び医療職員
 - SD研修プログラム(対面研修を含む)のうち2つ以上を受講

【受講後アンケート】

SD・FD研修の受講後、Campus Squareにてアンケート・受講履歴を回答。
※アンケートの回答をもって受講確認、対面研修の出席確認を行っている

2) SD研修プログラム 実施研修一覧

※対象：教育職員、事務職員及び医療職員 【視聴期間～3/14】

コード	形態	研修テーマ等
24-01	対面	自殺に傾く人への理解と対応 講師:川原 庸子 氏(医療法人信愛会 玉名病院 副院長)
24-02	O	研究倫理 e ラーニングコース(e-Learning Course on Research Ethics) [eL CoRE] 日本学術振興会
24-03	O	大学生の発達障害の理解と対応 講師:水間 宗幸(本学社会福祉学科 専任講師)
24-04	O	児童生徒への性暴力に関する教育委員会等における取組事例集及び教育職員向け 研修用動画 文部科学省
24-05	O	障害者差別解消法に関する理解・啓発セミナー 独立行政法人日本学生支援機構
24-06	O	現場が動き出す大学教育マネジメント(トップリーダーセミナー) 愛媛大学教育企画室 講師:鳶田 敏行(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 教授)
24-07	O	大学のIR(Institutional Research)入門 講師:竹中 喜一(近畿大学 准教授)

※実施形態 O:オンデマンド、対面:対面での研修

3) FD研修プログラム 実施研修一覧

※対象：教育職員 【視聴期間～3/14】

コード	形態	研修テーマ等	
24-08	対面	教育改善スキル修得オンラインプログラム(科目デザイン編)のすすめ 講師:鈴木 克明 (武蔵野大学 響学開発センター 教授)	
24-09	対面	教育改善スキル修得オンラインプログラムを活用した授業改善実践事例 講師:古堅 裕章 (本学看護学科 助教)	
24-10	O	生成 AI に関する教員向け研修動画シリーズ 文部科学省	
24-11	O	生成 AI の基礎と教育における活用可能性 文部科学省	
24-12	O	シリーズ大学の授業を極める 旧関西地区 FD 連絡協議会	1.授業設計
24-13	O		2.講義法
24-14	O		3.アクティブラーニング
24-15	O		4.学習評価
24-16	O	生成 AI 利用の本質的理解-大学の授業のために- 愛媛大学教育企画室 講師:森木 銀河 (九州大学インスティテューショナル・リサーチ室 学術推進専門員)	
24-17	O	学生理解と学生発達 東北大学高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター 講師:岡田 有司 (東京都立大学 准教授)	
24-18	O	オンライン授業づくり オンライン授業の設計 日本高等教育開発協会 講師:佐藤 浩章 (東京大学 教授)	
24-19	O	個人面談のポイント 日本高等教育開発協会 講師:上月 翔太 (愛媛大学 講師)	
24-20	O	シンク・ペア・シェア 講師:中井 俊樹 (愛媛大学 教授)	
24-21	O	遠隔授業でのアクティブ・ラーニング 講師:上月 翔太 (愛媛大学 講師)	
24-22	O	多人数授業でのアクティブ・ラーニング 講師:上月 翔太 (愛媛大学 講師)	

※実施形態 O:オンデマンド、対面:対面での研修

4) 対面SD研修の実施内容・委員長講評

テーマ：自殺に傾く人への理解と対応

講師：川原 庸子 氏（医療法人信愛会 玉名病院 副院長）

実施日：令和7年2月13日（木）14:30～16:00

《実施内容・委員長講評》

近年、若者によるリストカット、オーバードーズ（一般用医薬品の乱用）が深刻化し自死につながる事例も報告されている。こうした状況を踏まえ、早期の兆候を察知し適切に対応する重要性が高まっている。そこで、本研修では職員全員が自殺に関する知識と理解を深めることを目的とし、SD研修のテーマとして「自殺に傾く人への理解と対応」を選定した。

講師の川原氏には本学の保健管理センターの精神科医として委嘱しており、また、保健管理センターの職員を対象とした研修も月に1回開催するなど、豊富な指導経験を有している。

研修内容は具体的で、近年の大学生の傾向と職員が日頃から心がけるべき点についてわかりやすく説明があった。学生の希死念慮への対応について、職員一同が共通理解を持つことで、学生に対する早期対応が可能となり、大学組織全体としての統一された対応の構築に向けて今後取り組む必要があることが理解できた。

研修の参加者数も多く、熱心に聴講している様子が伺えた。限られた時間のなかで充実した研修が行われたことは評価できる。



4-2) 対面FD研修の実施内容・委員長講評①

テーマ：教育改善スキル修得オンラインプログラム（科目デザイン編）の
すすめ

講師：鈴木 克明 氏（武蔵野大学 響学開発センター 教授）

実施日：令和7年2月13日（木）16:10～17:10

《実施内容・委員長講評》

FD研修として、「教育改善スキル修得オンラインプログラム（科目デザイン編）のすすめ」をテーマとして選出したのは、研修を実施することで教員の授業における自身の教育改善スキルを振り返る機会とし、今後の授業改善に向けた取り組みを促進するためであった。

事前に本研修の内容に関する事前課題が示され、教員の取り組みにばらつきは見られたものの、当日の研修内容のなかで鈴木先生の丁寧な確認が行われ、参加した教員にとっては大変わかりやすい内容であった。

今後は、教員の自主的な教育改善スキルの修得とともに、大学としても授業評価として教育改善の状況を評価する手法の一つとして検討する必要があると示唆されるものであった。



4-3) 対面FD研修の実施内容・委員長講評②

テーマ：教育改善スキル修得オンラインプログラムを活用した授業改善
実践事例

講師：古堅 裕章 氏（本学看護学科 助教）

実施日：令和7年2月13日（木）17:20～18:00

《実施内容・委員長講評》

本研修は「対面FD研修①」に引き続き実施されたもので、鈴木先生の内容は基礎編としての位置づけで、実践編としての「教育改善スキル修得オンラインプログラムを活用した授業改善」であった。また、古堅先生が令和6年度の本学の「九州看護福祉大学教育職員の教育活動における表彰手続細則」に基づき「著しい教育効果をあげた者」として表彰を受け、その成果報告のために講師として研修での発表をお願いした。

授業における具体的な改善の方法について、教育改善スキルの段階を踏んだ説明がなされ、教員が自身の授業にどのように取り入れていけばよいか理解できる内容であった。基礎編と実践編を一揃いとして企画した研修にしたことで、教育改善スキルの内容の理解が深まったと思われる。

5) 総評

多くの職員が研修に参加することができるようにSD研修とFD研修を同日に設定して研修を開催した。SD研修の内容については、近年の動向と対策の必要性を理解できるもので、研修に参加することで職員が学生の対応に活かせるものであった。FD研修の内容については、教員の興味・関心の度合いにより今後への取り組みが異なるものではないかと思われた。教員が教育改善スキルを修得するには、更なる計画的な取り組みが可能な研修体制作りが必要である。

3. アンケート結果

アンケート調査は、学務情報処理システム・Campus Square を用いて下記内容にて行われた。

- 1) 受講履歴(教育職員・事務職員)及びアンケート
- 2) 令和6年度SD研修会(対面“川原先生”)に関するアンケート
- 3) 令和6年度FD研修会(対面“鈴木先生”)に関するアンケート
- 4) 令和6年度FD研修会(対面“古堅先生”)に関するアンケート

1) 受講履歴(教育職員・事務職員)及びアンケート

表 1. 受講者数/受講対象者数/受講率/ (受講状況内訳)

SD研修	131名/131名/100%
(対面+オンデマンド1つ以上:97名 オンデマンド2つ以上:34名)	
FD研修	81名/81名/100%
(対面+オンデマンド1つ以上:55名 オンデマンド2つ以上:26名)	

※研修の受講要件における内数

表 2. SD研修受講状況

SD研修プログラム	受講件数(人)
【対面研修】自殺に傾く人への理解と対応/講師:医療法人信愛会 玉名病院 川原 庸子 氏	97
研究倫理 e ラーニングコース(e-Learning Course on Research Ethics) [eL CoRE]/日本学術振興会	27
大学生の発達障害の理解と対応/ 講師:本学社会福祉学科 専任講師 水間 宗幸 氏	63
児童生徒への性暴力に関する教育委員会等における取組事例集及び教育職員向け研修用動画/文部科学省	23
障害者差別解消法に関する理解・啓発セミナー/ 独立行政法人日本学生支援機構	23
現場が動き出す大学教育マネジメント(トップリーダーセミナー) /愛媛大学教育企画室 講師:独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 教授 畠田 敏行 氏	34
大学のIR (Institutional Research) 入門/ 講師:近畿大学 准教授 竹中 喜一 氏	34

表 3. F D 研修受講状況

FD 研修プログラム	受講件数(人)
【対面研修】教育改善スキル修得オンラインプログラム(科目デザイン編) のすすめ/講師：鈴木 克明 氏 (武蔵野大学 響学開発センター 教授)	55
【対面研修】教育改善スキル修得オンラインプログラムを活用した授業改善実践事例/講師：古堅 裕章 氏 (本学看護学科 助教)	51
生成 AI に関する教員向け研修動画シリーズ/ 文部科学省	27
生成 AI の基礎と教育における活用可能性/ 文部科学省	22
シリーズ大学の授業を極める 1. 授業設計/ 旧関西地区 FD 連絡協議会	7
シリーズ大学の授業を極める 2. 講義法/ 旧関西地区 FD 連絡協議会	7
シリーズ大学の授業を極める 3. アクティブラーニング/ 旧関西地区 FD 連絡協議会	6
シリーズ大学の授業を極める 4. 学習評価/ 旧関西地区 FD 連絡協議会	6
生成 AI 利用の本質的理解-大学の授業のために-/ 愛媛大学教育企画室 九州大学インスティテューショナル・リサーチ室 学術推進専門員 講師：森木 銀河 氏	16
学生理解と学生発達/ 東北大学高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター 講師：東京都立大学 准教授 岡田 有司 氏	7
オンライン授業づくり オンライン授業の設計/ 日本高等教育開発協会 講師：東京大学 教授 佐藤 浩章 氏	10
個人面談のポイント/ 日本高等教育開発協会 講師：愛媛大学 上月 翔太 氏	15
シンク・ペア・シェア/ 講師：愛媛大学 教授 中井 俊樹 氏	5
遠隔授業でのアクティブ・ラーニング/ 講師：愛媛大学 講師 上月 翔太 氏	8
多人数授業でのアクティブ・ラーニング/ 講師：愛媛大学 講師 上月 翔太 氏	15

表 4. 現在の動画コンテンツの数について

設問内容	回答者数(人)
①多い	3
②やや多い	19
③普通	101
④やや少ない	8
⑤少ない	0

表 5. 視聴しやすい動画の長さについて

設問内容	回答者数(人)
①1 時間以上	1
②1 時間	57
③30 分	55
④15 分	16
⑤15 分以下	2

表 6. 今後の動画で視聴したいSD・FD研修のテーマについて（一部抜粋）

NO	
1	ハラスメントに関する内容、ハラスメント防止・対策研修
2	選ばれる大学になるための広報、少子化の中での大学経営の在り方
3	利益相反
4	科研費について
5	学生のメンタルヘルス、学生の勉強意欲を引き出す方法
6	いじめなどの学生間トラブルの対応
7	障害のある学生への対応及び大学として事前に準備すべき対処要領
8	教員のメンタルヘルスケア、職員のモチベーション向上
9	大学公立化に関する内容
10	地方大学の地域連携、地域貢献の成功例など、地域連携をテーマとしたもの
11	内部質保証や学修成果の可視化
12	アンガーマネジメント
13	生成 AI について、生成 AI に関する教員向け研修動画
14	ICT の活用について、ICT を活用した授業 実践編
15	IR 資料の実物と活用例
16	アクティブラーニングについて、アクティブラーニングの体系化と実際
17	認証評価第 4 サイクルでまとめられている教育活動について

18	インストラクショナルデザインについて
19	研究倫理について
20	発達障害について
21	オーバードーズについて
22	SDGsと大学の関わり
23	学校教育法や設置基準など、大学の周辺を取り巻く法律等の改正
24	チャット GPT の講義への活用方法
25	演習の評価方法について コーチング技術について

表 7. 研修を受講しやすい時間、時間帯について（一部抜粋）

NO	
1	学生の夏休み、春休み
2	8～9月
3	10月下旬～12月
4	1～3月
5	午後の時間帯
6	授業時間終了後の時間帯
7	もう少し、受講できる期間を延ばしてほしい

表 8. 今後のSD・FD研修会の実施形態について要望・意見（一部抜粋）

NO	
1	オンデマンドが受講しやすい
2	オンデマンドの種類をアップデートしてもらえると助かります
3	現在のように対面とオンデマンドの併用が受講しやすい
4	本学が取り組まなければならない課題についてグループワークなどを含むFD研修の実施
5	ワークショップ型による研修会の是非についても検討していただきたい
6	対面型の研修会を増やしていただきたい
7	今までどおり、「SDプログラム研修(対面研修を含む)のうち2つ以上を受講」で丁度いいと思います。
8	今年のような対面研修の三連続は集中力が続かない
9	一定の時期に限定せず、年間を通して受講できると助かります
10	最終的にそれぞれの内容を何人の教職員が受講したかを報告いただくと、今後の参考になると思います。

2) 令和6年度SD研修会（対面“川原先生”）に関するアンケート

表 9. 研修会のテーマについて

設問内容	回答者数(人)
①満足	69
②やや満足	23
③普通	5
④やや不満	0
⑤不満	0

表 10. 講演の分かりやすさについて

設問内容	回答者数(人)
①非常にわかりやすい	59
②わかりやすい	31
③普通	7
④わかりにくい	0
⑤非常にわかりにくい	0

表 11. 講演の時間について

設問内容	回答者数(人)
①非常に長い	6
②長い	7
③ちょうどよい	82
④短い	2
⑤非常に短い	0

表 12. 講演内容の有益性について

設問内容	回答者数(人)
①非常に有益	48
②有益	42
③普通	7
④あまり有益ではない	0
⑤有益ではない	0

表 13. 「講演内容の有益性について」非常に有益、有益、普通を選択した方は具体的にどのような点が有益だったか（一部抜粋）

NO	
1	本研修では、自殺リスクの評価方法や最新の統計データが示され、科学的根拠に基づいた予防策が紹介されました。特に、大学生に見られる自殺のリスク要因や、効果的な介入方法に関する知見が得られた点が有益でした。
2	若年層の自殺者の現状について再確認できたことと、「ゲートキーパー」という役割の重要性と必要性について知れた点について有益であった。
3	実際に学生に、どのように対応すればよいのか悩むことがあったため、実践的な内容が理解できた
4	自殺に関する概要や個人でもできる支援についてわかりやすく具体的に説明されていたのが有益だと感じました。
5	児童生徒等の自殺が後を絶たないことは極めて憂慮すべきことであり、背景と原因や早期発見の重要性を理解することができた。サインを見逃さないようにしたい。
6	具体的な例示がありイメージしやすく行動が起こしやすい内容であった。また、学生と家族の関係性の中で、親に伝えないでほしいなどの希望があった場合の対応も緊急度に応じて変更していく必要性が理解できた。また、教員として、一人で抱え込むのではなく、情報の共有や対応の検討が重要と感じた。
7	メンタル不調者への具体的な支援についてアクションプランをもとにしたわかり易く、取り組みやすい内容だった。また、支援者の健康についても触れられており、支援を受ける者と支援する者双方の健康が大切であることは、支援に集中する際に忘れがちで、改めて認識させられる内容でした。自身の専門外の統計的な国内の動向も、大変参考になりました。
8	メンタルヘルス・ファーストエイドアクションプラン等、普段の学生対応等から実践できる内容が非常に有益であった。保健管理センター、学科教育職員等との連携の重要性も学ぶことができたことが有益であった。
9	これまでの学科内での学生対応にて、メンタルヘルスに不調がありそうなもの、希死念慮を有するものに対峙する経験があったため、そのような対象者の背景、対応方法に関して振り返りを行う機会となりました。

表 14. 今後対面で受講してみたい SD 研修会のテーマについて（一部抜粋）

NO	
1	合理的配慮が必要な学生の支援について
2	発達障害のある学生への関り方、不登校学生への対応の仕方
3	現代の若者の特性と支援
4	アンガーマネジメントに関するもの
5	ハラスメントに関する研修
6	自殺予防対策やメンタルヘルス、ゲートキーパーなど
7	ストレスマネジメント
8	支援者のメンタルヘルスケア
9	いじめなど学生間トラブルの対応方法(大学として)
10	大学教育における DX の現状について
11	学生の SNS 使用における現状や教育上の留意点
12	大学運営に関する内容。組織体制についてなど
13	内部質保証や認証評価第 4 サイクルについて
14	地域連携について大学の役割、大学の地域連携における取組の事例
15	不正防止
16	文部科学省職員や他大学職員による講演(科研費、私学法等の制度について、先進的な取組について等)
17	組織管理や組織のマネジメントについて具体的な理論・方法などについて
18	科研費の応募促進に向けた取り組み
19	教職員の待遇
20	公立大学と私立大学の違い、いろいろな分野(経理関係、申請関係等)について
21	今後の医療者育成に求められるもの
22	生成 AI について
23	教育・カリキュラム運営の向上、多様な学生への対応、ICT の導入について
24	アサーティブコミュニケーション、クレーム対応
25	メンタルヘルスについては、しばらく継続してほしい
26	組織行動の考え方、経営マネジメントなど
27	仕事を行う上でのタイムマネジメント研修
28	ティーチングポートフォリオの必要性和作成方法について
29	事務職員と教育職員の連携
30	生成 AI について

表 15. その他要望・ご意見について（一部抜粋）

NO	
1	対面研修の実施アナウンスをもう少し早めにいただけると幸甚です
2	ワークショップ形式等の参加型を希望します。
3	今回は貴重な研修会を開催いただきありがとうございました。川原先生の研修を職場全体で受けることができたことに、感謝いたします。
4	メンタル不調者は学生も職員も多くなっています。 支援者への研修や自身のストレスに対するセルフケア研修等も必要ではないかと思えます。
5	対面開催時は課内待機のため参加できませんでしたが、オンデマンド配信で受講することができました。来年度も可能であればオンデマンド配信をしてもらえれば助かります。
6	SD 研修会・FD 研修会両者に関係するかもしれませんが、研修会の時期について、講師の先生のご都合がよければ、成績入力期間以外・実習期間以外の期間に設定されると、より多くの職員が参加できるのではないかと思います。

3) 令和6年度FD研修会（対面“鈴木先生”）に関するアンケート

表 16. 研修会のテーマについて

設問内容	回答者数(人)
①満足	38
②やや満足	9
③普通	8
④やや不満	0
⑤不満	0

表 17. 講演の分かりやすさについて

設問内容	回答者数(人)
①非常にわかりやすい	30
②わかりやすい	15
③普通	10
④わかりにくい	0
⑤非常にわかりにくい	0

表 18. 講演の時間について

設問内容	回答者数(人)
①非常に長い	3
②長い	3
③ちょうどよい	36
④短い	11
⑤非常に短い	2

表 19. 講演内容の有益性について

設問内容	回答者数(人)
①非常に有益	25
②有益	22
③普通	7
④あまり有益ではない	1
⑤有益ではない	0

表 20. 「講演内容の有益性について」非常に有益、有益、普通を選択した方は具体的にどのような点が有益だったか（一部抜粋）

NO	
1	担当科目の授業計画の見直しにつながる情報を得ることができた。今後のカリキュラム策定にも応用できる内容だった。
2	授業改善のモジュールに関するチェックリストが整理されていた点。パラレルセッションや応用事例の先出しなどは来年度の授業で取り入れようと思いました。
3	自分の授業の方法を再考するヒントが得られた。
4	現在自身が行っている授業構成・内容の振り返りが行え、今後の改善点が複数見つかった。修正可能な部分から少しずつ変更を行い、教育改善に繋がっていきたいと感じました。
5	事前に鈴木先生の課題学習を確認し大まかに内容を把握でき、次年度の教育方法等の振り返りの方向性を考えるきっかけになった。しかし、後半古堅先生の前座といわれ、短時間でしたので、もう少し時間を割いていただきたかったと思います。
6	グループワークの事前学習や評価に関して試行錯誤しながら組み立て、実施の際も臨機応変に工夫しながら授業を実施しているようなところがありましたが、専門用語、分類が分かったことで、自分自身の授業がどれに該当するかが分かり、今後の方向性についても参考になりました。
7	FD 研修の方法について、助言があり新しい方法として有効だと感じた。
8	学生への教授方法が良く理解できました。

表 21. 今後対面で受講してみたいFD研修会のテーマについて（一部抜粋）

NO	
1	ICT を活用した授業設計と実践的ツールの紹介、教材の作成の実際など
2	アクティブラーニング等について総合大学(例:熊本大学等)で展開されている講義の工夫等について聞いてみたい
3	インタラクショナルデザインについて実際の事例を通して事例検討を行いたいです。(古堅先生のような事例を具体的に挙げてみんなで検討したい)シミュレーション教育にも興味があるので、それについても実際に自分たちで体験して学びたい。DX 化が進んでいるので、他大学でどのような取り組みをされているのか学びを深めたい。
4	科研に関わるもの
5	学生教育の最新の方法や評価方法など、実習評価について
6	授業設計に関する内容
7	人を対象とした研究倫理に関する FD
8	合理的配慮について、認知的発達について
9	主体的学習意欲の低下した現代の学生への授業の展開について
10	学科別でシラバス構成の情報共有や意見交換を行うようなグループディスカッションが開催されるのも大変興味深いと感じました
11	実習授業における Ai の活用方法について
12	章を読む・文章で説明する・自分の考えを論じる力を身につけるための授業実践例や、文章に触れる機会を増やす取り組みに関する実践例があれば、今後の FD 研修会で取り上げていただきたいと思います。授業をしていると、文章を読む・論じるということに難しさを感じる学生も多いように思います。授業内で取り入れられる試みや、事前学修でのポイントなどがあればご教授いただきたいです。

表 22. その他要望・ご意見について（一部抜粋）

NO	
1	教員だけではなく、学生も学び方を学ぶ必要があるのではないのでしょうか。3つの講演を連続で聴くのは集中力も保てないので、別日開催してもらいたいです。
2	講演とそれを実践するグループワークなどの組合せがあるとより理解が深まると感じました。
3	各学科・学年における各科目の位置づけについて確認する機会、意見交換やディスカッションなどをする機会もあればと思います。

4) 令和6年度FD研修会（対面“古堅先生”）に関するアンケート

表 23. 研修会のテーマについて

設問内容	回答者数(人)
①満足	37
②やや満足	7
③普通	7
④やや不満	0
⑤不満	0

表 24. 講演の分かりやすさについて

設問内容	回答者数(人)
①非常にわかりやすい	25
②わかりやすい	18
③普通	7
④わかりにくい	1
⑤非常にわかりにくい	0

表 25. 講演の時間について

設問内容	回答者数(人)
①非常に長い	4
②長い	1
③ちょうどよい	43
④短い	3
⑤非常に短い	0

表 26. 講演内容の有益性について

設問内容	回答者数(人)
①非常に有益	20
②有益	24
③普通	7
④あまり有益ではない	0
⑤有益ではない	0

表 27. 「講演内容の有益性について」非常に有益、有益、普通を選択した方は具体的にどのような点が有益だったか（一部抜粋）

NO	
1	鈴木先生の研修後実践編ということで具体的な応用の仕方が理解できた。
2	体系的に説明して頂いたので、実技や体験のグループワークを実施する際の授業構成に役立つ内容でした。
3	授業改善の一端が分かったからです。
4	授業の実践例を具体的にお聞きすることができ、勉強になりました。
5	本学学生を対象とした授業改善の取組が題材となっていた。導入時の問題点やそれに対処するための方法と時間的負荷などについて、もう少し情報があればなお良かったと思います。（短い講演時間の中でも演者の先生はうまく整理・発表されていたと思います。）
6	実践をお聞きできた点、特に試行錯誤をされたご紹介は、自分でもがんばってみたいとい気持ちになった。
7	事前学習の方法、ICT の活用などが大変参考になった。
8	具体的な取り組みの紹介のため、方法がわかり刺激になりました。
9	教育改善の話で具体例がないとわかりにくい部分が、具体的な経験をもとによくわかりました。
10	看護の技術や演習での教授方法の選択肢が増えた。
11	どのように工夫されているのか、学習効果を考えながら教育に取り組まれていることがわかり、刺激になった。パワーポイントを見えやすくしていただくにより効果的だと思います。
12	IT をどのように活用して、講義改善を実現されているのか、その実際を学び理解が深まった。活用方法を身につける必要があると感じた。

表 28. 今後対面で受講してみたいFD研修会のテーマについて（一部抜粋）

NO	
1	人を対象とする生命科学・医学系研究 倫理指針
2	授業改善の他の事例
3	今回の続きの結果の比較などがあれば知りたい。
4	大学の授業におけるICTの効果的な活用方法
5	高校の進路指導の先生方と大学の教職員とのワークショップ:双方の求めていることや現状を知ること、互いのギャップを少しでも埋めることが出来るような気がします。
6	学生生活において、連絡が取れない、生活状況の把握ができない学生への対応
7	学修評価の方法。特にルーブリック評価表の作成の仕方。
8	ICT教育の弊害について
9	本学と類似の医療系の専門職を要請する学科の教育プログラム

表 29. その他要望・ご意見について（一部抜粋）

NO	
1	面倒で複雑なことではなく、ちょっとしたことで授業が改善されるような方法論の方が他の教員も取り入れやすいのではないかと思いました。
2	大変勉強になりました。

4. 令和6年度 SD・FD委員会 構成員

【SD委員会 構成員】

委員長	看護学科	教授	柴田	恵子
	社会福祉学科	教授	山住	賢司
	リハビリテーション学科	准教授	大浦	佳子
	鍼灸スポーツ学科	准教授	野口	恭庸
	口腔保健学科	教授	中山	真理
	基礎・教養教育研究センター	准教授	後藤	隆昭
	事務局 総務課	課長	猪本	愛
	事務局 経理課	課長	本田	典男
	事務局 入試広報課	課長	山本	亜希
	事務局 教務課	課長	岩永	紗枝
	事務局 学生課	課長	甲斐	強士
	事務局 企画課	課長	松浦	哲
	事務局 業務改善推進室	室長	内田	慎吾
	事務局 図書課	課長	福本	直子

【FD委員会 構成員】

委員長	看護学科	教授	柴田	恵子
	社会福祉学科	教授	山住	賢司
	リハビリテーション学科	准教授	大浦	佳子
	鍼灸スポーツ学科	准教授	野口	恭庸
	口腔保健学科	教授	中山	真理
	基礎・教養教育研究センター	准教授	後藤	隆昭

令和6年度 九州看護福祉大学 SD・FD 実施報告書

発行日：令和7年6月17日

発行者：九州看護福祉大学 自己点検・自己評価委員会（SD・FD委員会）

〒865-0062 熊本県玉名市富尾 888 番地

TEL：0968-75-1800